

社会福祉法人松戸市社会福祉協議会
令和 6 年度第 3 回松戸市居場所づくり全体会議要旨

1 日 時 令和 7 年 2 月 14 日(金) 午後 1 時 30 分～2 時 30 分

2 会 場 松戸市社会福祉協議会 第 1・2 ボランティア室

3 議 事

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

各地区の進捗状況報告について

4. 議 題

令和 7 年度「まつど DE つながるステーション」の承認・活動費の支出について

(小金地区、東部地区、六実六高台地区、馬橋地区、明第 2 西地区、明第一地区、
小金原地区、馬橋西地区、矢切地区、常盤平地区、新松戸地区、五香松飛台地区、
常盤平団地地区)

5. その他

4 出 席 者

(1) 出席委員(9 名)

会長	小川 早苗	松戸市社会福祉協議会 会長
副会長	恩田 忠治	松戸市町会・自治会連合会 会長
委員	町山 雅則	松戸市町会・自治会連合会 副会長
委員	梶原 栄治	松戸市民生児童委員協議会 副会長
委員	山崎 恵	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	松村 大地	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	伊東 朱美	松戸市総合政策部 部長
委員	上野 真一	松戸市市民部 部長
委員	井之浦 太郎	松戸市生涯学習部 部長

(2) 出席機関(6 名)

松戸市総合政策部地域共生課

(3) 事務局(7 名)

松戸市社会福祉協議会

5 議事内容

■各地区の進捗状況報告について

松戸市地域共生課より説明。

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問 1】

高校生の方々が協力しているとのことだったが、中学生が携わっていることはあるか。また中学生が参加している地区は高校生も参加しているか。

【回答 1】

地域の人の声掛けによって高校生と中学生が参加している地区もある。

ワークショップをした際に、中学生が高校生にアドバイスをもらいながら生き生きと活動している様子が見られ、小学生も楽しみながらボランティア活動をしている。

【質問 2】

学生が参加している場合、将来や進路に活かせたらよいと思う。例えばボランティア証明書など発行しているのか。また学生が主体的になった企画などあれば聞きたい。

【回答 2】

各地区の実行委員長の名前でボランティア証明書を発行しており、学校に提出し役立っていると聞いている。

学生の企画については、ダンスや吹奏楽、リサイクルするペットボトルのキャップを用いたアクセサリーづくりや蜜蝋を使ったラップ等がある。

■令和 7 年度「まっど DE つながるステーション」の承認・活動費の支出について

(小金地区、東部地区、六実六高台地区、馬橋地区、明第 2 西地区、明第一地区、小金原地区、馬橋西地区、矢切地区、常盤平地区、新松戸地区、五香松飛台地区、常盤平団地地区)

昨年度に続き令和 7 年度も継続して活動する 13 地区の申請内容について、松戸市地域共生課より一括して説明。異議なしとして承認された。

(1) 小金地区

小金地区ステーションの開催概要

ステーション名	小金わくわく農園
目的	農福連携をテーマに、農作業を通じて子どもから高齢者等の多世代交流の機会創出を目的とする。
期間	令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月(毎月開催予定)
開催場所	・農園(農作業場所):松戸市平賀 ・拠点:赤門家(松戸市平賀 7-2) ・小金北市民センター 等
開催内容	・農作業を通じての多世代交流(種まきや草抜き等の農作物の手入れ)

	・収穫イベント ・農作物について農業指導者より学びの提供 ・タウンミーティング ・小金地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	小金地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1回 30～100人程度
運営者人数	1回 10～20人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各委員の活動での告知）
助成金申請額	480,000円

(2)東部地区

東部地区ステーションの開催概要

ステーション名	東部地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
期間	令和7年5月～令和8年3月（年7回開催予定）
開催場所	紙敷あんど、熊野神社、松戸市大橋 1102、和名ヶ谷集会所、高塚新田集会所、秋山集会所、東松戸ゆいの花公園 等
開催内容	・飲食物の提供や工作体験等を通じての多世代間交流 ・東部地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	東部地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1回 50人程度
運営者人数	1回 10人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
助成金申請額	480,000円

(3)六実六高台地区

六実六高台地区ステーションの開催概要

ステーション名	つどうde6∞6（ツドウデロクロク）
目的	多世代間および運営者間の交流及びつながりづくり等を促進する。
期間	令和7年4月～令和8年3月（毎月開催予定）
開催場所	【固定型】 信隆寺、みんなの居場所あびす 【巡回型】 六実市民センター、高麗神社 等
開催内容	・時間と場所を固定した固定型開催で、自由に過ごせる居場所の提供 ・巡回型開催で固定型および地区内既存活動等を周知

	・六実六高台地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	六実六高台地区の方々および居場所運営などに関わるの方々 等
参加者人数	1 回 5～100 人程度
運営者人数	1 回 2～30 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各委員の活動での告知）
助成金申請額	480,000 円

(4)馬橋地区

馬橋地区ステーションの開催概要

ステーション名	まばし DE エンジョイ！
目的	地域で子どもたちが交流したり、子ども同士で外遊びをする機会が減少している現代社会において、地域の子どもから高齢者までの多世代交流のきっかけづくりを進めていく。
期間	令和 7 年 5 月～令和 8 年 2 月（年 6 回開催予定）
開催場所	馬橋東市民センター、八ヶ崎市民センター、八ヶ崎小学校、八ヶ崎第二小学校、幸谷小学校、県立松戸高等学校、県立松戸高等学校周辺農地、各町会会館 等
開催内容	・様々な遊びを通じた多世代交流 ・農作物の収穫を通じての多世代交流 ・馬橋地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	・子どもとその保護者 ・地域の高齢者、中高生等
参加者人数	1 回 20～100 人程度
運営者人数	1 回 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各委員の活動での告知）
助成金申請額	480,000 円

(5)明第 2 西地区

明第 2 西地区ステーションの開催概要

ステーション名	にじいろステーション
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
期間	令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月（毎月開催予定）
開催場所	古ヶ崎市民センター、青少年会館樋野口分館、栄町 8 丁目町会会館、古ヶ崎本田町会集会所 等
開催内容	・遊びや創作活動等の体験を通じての多世代間交流 ・サロン

	・明第 2 西地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	明第 2 西地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1 回 100 人程度
運営者人数	1 回 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
助成金申請額	480,000 円

(6)明第一地区

明第一地区ステーションの開催概要

ステーション名	はばたけ明第一 ～世代をこえて～
目的	地域の子どもから高齢者までの多世代交流のきっかけづくりを進めていく。
期間	令和 7 年 5 月～令和 8 年 2 月（年 5 回開催予定）
開催場所	地区内の集会所、市民センター 等
開催内容	・地区内の各（第 1～第 5）ブロックを巡回し、子ども、保護者、高齢者向けの運動・遊び・出し物を通じて、多世代交流を図る。 ・明第一地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	明第一地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	1 回 20～100 人程度
運営者人数	1 回 10～20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ・各実行委員の活動での告知）
助成金申請額	400,000 円

(7)小金原地区

小金原地区ステーションの開催概要

ステーション名	小金原地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて地域への愛着を持ってもらう。
期間	令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月（毎月開催予定）
開催場所	小金原 7 丁目西町会会館 等
開催内容	・世代を問わずに集える場を通じて多世代間交流を図る ・小金原地区および市内の各種情報提供 ・アンケート
主な対象者	小金原地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1 回 30 人程度
運営者人数	1 回 10 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ・各実行委員

	の活動での告知)
助成金申請額	480,000 円

(8)馬橋西地区

馬橋西地区ステーションの開催概要

ステーション名	みんなでワイワイ
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
期間	令和 7 年 5 月～令和 8 年 2 月(年 6 回開催予定)
開催場所	馬橋小学校、旭町中学校、馬橋市民センター、中央町会会館、青少年会館体育館 等
開催内容	・ユニバーサルスポーツの体験等を通じた多世代間交流 ・ステーション活動の周知 ・馬橋西地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	馬橋西地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1 回 20～100 人程度
運営者人数	1 回 10～20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他(口コミ、各委員の活動での告知)
助成金申請額	480,000 円

(9)矢切地区

矢切地区ステーションの開催概要

ステーション名	矢切地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
期間	令和 7 年 6 月～令和 8 年 2 月(年 6 回開催予定)
開催場所	総合福祉会館 等
開催内容	・食べ物の提供(ポップコーン等)、遊び体験、ワークショップ、交流(カフェ)スペース等を通じての多世代間交流 ・矢切地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	矢切地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1 回 100 人程度
運営者人数	1 回 15 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他(口コミ、各委員の活動での告知)
助成金申請額	480,000 円

(10)常盤平地区

常盤平地区ステーションの開催概要

ステーション名	まつどDEつながるステーション in ときわ平
目的	地域の子どもから高齢者までの多世代交流のきっかけづくりを進めていく。
期間	令和7年6月～令和8年2月(年6回開催予定)
開催場所	市民センターや地区内の集会所 等
開催内容	・地区内の既存活動を周知・体験 ・喫茶コーナー ・健康、相談コーナー ・常盤平地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	常盤平地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1回 50～100 人程度
運営者人数	1回 10 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他(口コミ、各委員の活動での告知)
助成金申請額	480,000 円

(11)新松戸地区

新松戸地区ステーションの開催概要

ステーション名	新松戸地区「まつど DE つながるステーション」
目的	・ステーション活動を通じて多世代交流の機会を生み出すことにより、地区内で顔見知りを増やすきっかけとする。 ・新松戸地区の特色を活かしたプログラムを実践することにより、地区へのシビックプライド等を醸成するきっかけとする。
期間	令和7年5月～令和8年2月(年6回開催予定)
開催場所	新松戸市民センター 等
開催内容	・古本等の交換をきっかけとした多世代間交流 ・遊びやスポーツ等を通じた多世代間交流 ・カフェスペース ・新松戸地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	新松戸地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1回 100 人程度
運営者人数	1回 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他(口コミ、各委員の活動での告知)
助成金申請額	480,000 円

(12)五香松飛台地区

五香松飛台地区ステーションの開催概要

ステーション名	五香松飛台地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて、多世代が交流し地域への愛着・誇りを持ってもらう。
期間	令和 7 年 6 月～令和 8 年 2 月(年 6 回開催予定)
開催場所	五香公会堂、五香市民センター、松飛台市民センター、もとやま会館、泉ヶ丘自治会館 等
開催内容	・世代を問わずに集える場を提供 ・多世代間の交流を図るイベント実施 ・五香松飛台地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	五香松飛台地区在住者および在勤、在学者
参加者人数	1 回 30 人程度
運営者人数	1 回 10 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS/HP／その他（口コミ、各委員の活動での告知）
助成金申請額	480,000 円

(13)常盤平団地地区

常盤平団地地区ステーションの開催概要

ステーション名	団地のなかま
目的	ステーション活動を通じ、地域において、多世代が交流する機会を増やす。
期間	令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月(年 6 回開催予定)
開催場所	常盤平市民センター 等
開催内容	・世代を問わずに集える場を提供 ・多世代間の交流を図るイベント実施 ・常盤平団地地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	地域の高齢者や子ども 等
参加者人数	1 回 50 人程度
運営者人数	1 回 10 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS/HP／その他（口コミ、各委員の活動での告知）
助成金申請額	480,000 円

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問 1】

年間スケジュール案をみると毎月開催している地区や年 5～7 回の地区があるが、適正な回数はどのように考えているのか。

【回答 1】

実行委員会には概ね年間 6 回程度、上限 480,000 円での開催をお願いしている。5 回の地区は地区内を 5 地区に分けて開催する計画となっているなど、地区の事情によって回数を決めている。

【質問 2】

実行委員会のメンバーをみると年齢が高い人が中心になっているように感じ心配である。今後の世代交代や続けていくためのポイントなど考えがあれば聞きたい。また市社会福祉協議会や町会等の事業などとの兼務があり負担が大きくなることを心配している人がいると思うが、そういったことについて何かあれば聞きたい。

【回答 2】

実行委員会の年齢層は高くなっていると思う。高齢の人は地域やいろいろな人の顔を知っているなど良い点があるが、若い人を入れていくのは必要であると思う。

大学生や高校生が関わりを持つ中で、ボランティア活動に留まらず高校生が町会の役員になるところもでてきており孤立を防ぐことにもつながるため、こういった事例が増えればよいと思っている。矢切地区では子育て世代の人が実行委員会に入っているところもある。

他の活動との関わりについて、アンケート調査で実行委員会に携わっている人から負担はあるが楽しかった、自分も知り合いができたといったことから今後も活動を続けたいとの回答が 89%あった。このことからできるだけひとりの人に負担がかからないよう皆で分担しながら進めていきたい。

【質問 3】

各実行委員会が地域共生課を通じて、内容を確認してから申請しているのか。

予算計画の支出において“等”が多く、印刷製本費のチラシ等では金額に差があるがなぜか。

【回答 3】

本事業は少し大きな枠で予算を立てている。印刷製本費の金額については、地域内の印刷業者に依頼し配布も依頼しているため少し高くなる場合や、計画が決まっている地区では、年間のチラシが印刷できるため金額に差がでている。

【質問 4】

市民センターの会場使用料はどうなっているか。市民センターのみを利用するのに使用料が計上されている。

【回答 4】

市民センターについては市と共催のため公用申請をしており、会場使用料はかかっていない。町会会館の使用や団体が持っている物品を借りる場合は使用料に入ってくる。

各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

【感想・ご意見】

子育て世代の人に声をかけて参加してもらおう流れを作ってもらえるとありがたい。

6 その他

(1) 令和 6 年度松戸市居場所交流会について(報告)

事務局より説明。

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問 1】

ひきこもりの人がどのくらいの地区で参加があったか、参加してどういった感じだったか。

【回答 1】

事例としてはひきこもりの子どもとは知らずにお手伝いをお願いしたらやってもらえた。就労支援を受けている事業所の人や相談員と何度か参加していくにつれて外に出るのがだいぶ慣れてきた。新松戸地区の古本市では、地域若者サポートステーションに古本の処理の手伝いをお願いしたところ、サポートステーションに通っている人が主となり作業した。そのせいかわからないがリーダー的な存在となってマニュアルなどを作ってくれた人が就職したといったことがあった。

ひきこもりであるかは相談等を受けないとわからないため件数は把握していない。集計中の参加者アンケート結果ではステーションに参加している人でも人との付き合いがない、ときどきないと感じているとの回答が 33%あった。また孤立について自分が取り残されていると感じている、ときどき感じているとの回答が 17%あった。ステーションでつながりができたかとの質問には多くの人がつながりが増えていると回答があり、声かけによって地域活動に携わるなど、この事業が機能しているのではないかと考えている。

【質問 2】

ステーション運営について、居場所づくりとは何か、今の取り組みがあっているのか疑問に感じているという声があったのが気になった。今後どのようなことを目標として取り組んでいくか事務局で具体的な案があったら聞きたい。

【回答 2】

当該事業は、人と人、人と地域がつながるという居場所機能を創出しており、参加支援、ひきこもりや問題を抱えた人たちが地域社会に参加して解決の糸口にあたったりすること。また、そういう方々を包み込むような地域の力を強めていくことに取り組んでいるところである。

各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

【感想・ご意見】

- ・ 普段参加できない人も参加しているデータもあるので、居場所づくりで地域の輪が広がっていることがわかった。
- ・ 年数と回を重ねるごとに認知度もあがり、いろいろな人が参加している様子があった。
- ・ ステーションで気になる人に声をかけたところ、ここに来ていろいろ教えてもらいヘルプマークや障害者手帳を持てた、本当に助かったとの感想をもらったのがすごく印象に残っている。その人はチラシに誰でも参加できると書いてあったのが良かったと言っていた。

- ・実行委員のやる気や達成感をどう担保していくか考え、事務局で伴走してもらえるとよい。
- ・座談会の主な内容は居場所づくり実行委員の生の声である。

(2) 今後の予定

令和7年度第1回松戸市居場所づくり全体会議の開催

日時: 令和7年4月11日(金) 午後1時30分～